



# 国際観光都市としての 機能整備の方向性について

(第2回の研究会における議論を踏まえた検討)

- 1 第2回研究会における主なご意見……………1ページ
- 2 集客を目指すターゲットについて……………2ページ
- 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ……………5ページ
- 4 この地域ならではの特色について……………10ページ
- 5 周辺地域との観光連携について……………14ページ
- 6 国際観光都市として目指すべき方向性(まとめ)……………16ページ

 平成29年11月15日



# 1 第2回研究会における主なご意見

## 1 ターゲットを踏まえた機能整備について

- ・客層にあわせた形の整備があるので、どういう客層を狙って国際観光都市を目指すのかを明確にしておくべきである。

## 2 この地域ならではの特色について

- ・いかに愛知らしさの特色を出していけるかが重要。
- ・愛知だけにしかないようなエンターテインメントを、今後、考えていかなければならない。

## 3 周辺地域との連携について

- ・空港エリアに人を呼び込むだけでなく、そこから各地域に人を送り出す機能についても検討が必要。
- ・地域文化のショーケースのような機能を展開していくことが必要。

## 2 集客を目指すターゲットについて①

(第2回研究会におけるご意見)

- ・客層にあわせた形の整備があるので、どういう客層を狙って国際観光都市を目指すのかを明確にしておくべきである。

(本県の考え方)

「MICEを核とした国際観光都市の実現」に向けて、次のようなターゲットを想定する。

### (1) 国内外からのMICE参加者

一般観光客よりも高い経済効果(消費支出額)があり、新しいビジネス・イノベーションの創出につながるMICE参加を目的としたビジネス客

### (2) 訪日外国人旅行者

今後も大幅な増加が見込まれ、我が国の観光産業を底上げする訪日外国人旅行者

## 2 集客を目指すターゲットについて②

### (1) 国内外からのMICE参加者

- ・幅広いMICEを誘致することで、MICEに参加する多様な参加者を国内外から集客していく。
- ・とりわけ、本県においては、自動車、航空宇宙、ロボットなどモノづくり産業に関連する国内外のビジネス客や技術開発に関わる研究者等が主要なターゲットになるのではないか。

### (想定されるMICE参加者)

- ・国際会議や学会等に参加する各国代表者、NGO、グローバル企業、研究者、学生等
- ・展示会、イベント等の主催者、出展者、一般参加者等
- ・企業報奨・研修旅行の参加者

### 【参考】MICEの定義と具体的事例

出典：観光庁

#### Meeting

企業等のミーティング等。  
例：海外投資家向け金融セミナー、グループ企業の役員会議 等

#### Incentive (Travel)

企業が従業員やその代理店等の表彰や研修などの目的で実施する報奨旅行のこと。企業報奨・研修旅行とも呼ばれる。  
例：営業成績の優秀者に対し、本社役員によるレセプション 等

#### Convention

国際団体、学会、協会が主催する総会、学術会議 等。  
例：北海道・洞爺湖サミット、国連防災世界会議、世界水フォーラム、国際眼科学会、世界牛病学会 等

#### Exhibition / Event

文化・スポーツイベント、展示会・見本市。  
例：東京国際映画祭、世界陸上競技選手権大会、国際宝飾展、東京モーターショー 等

## 2 集客を目指すターゲットについて③

### (2) 訪日外国人旅行者

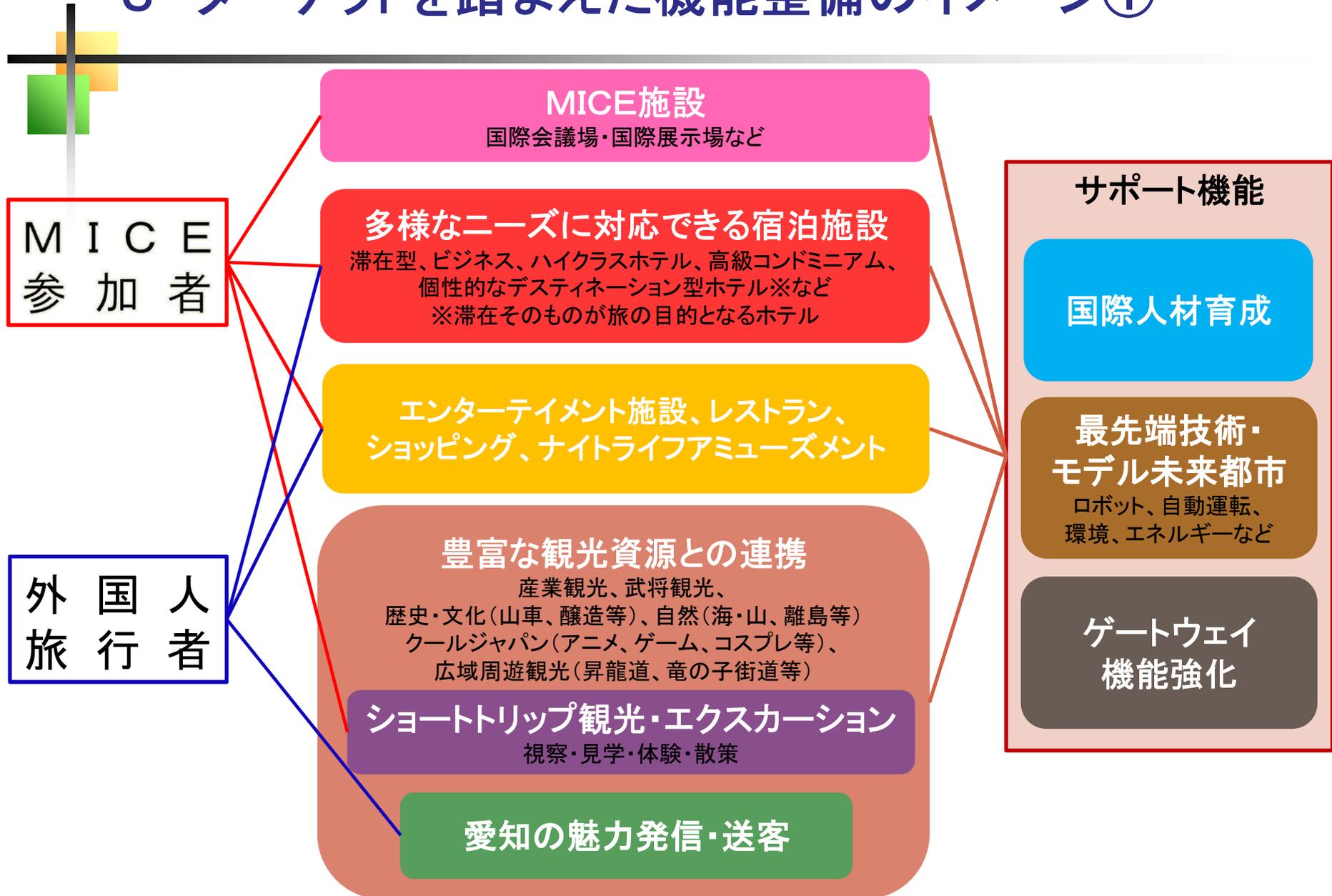
- ・国は観光を成長戦略として位置づけ、その重点施策として訪日外国人旅行の増大を図っており、訪日外国人旅行者は目覚ましい増加を続けている。
- ・本県は、歴史や伝統産業、自然等の豊かな観光資源を有するとともに、日本のほぼ中央に位置し、2つの空港、3つの新幹線駅、高速道路網、港湾といった良好なアクセス環境を有している。
- ・この強みを活かし、世界中から人々が集うにぎわいある国際観光都市の実現に向けて、訪日外国人旅行者を広く取り込んでいく。

### (想定される訪日外国人旅行者)

- ・訪日客数が多く、地理的にも近いアジアからの旅行者
- ・滞在日数が長い欧米からの旅行者

- ※そのほか、期待される客層
- ・ビジネス来訪をきっかけとしたリピーター
  - ・MICE参加者の同伴者

### 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ①



### 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ②

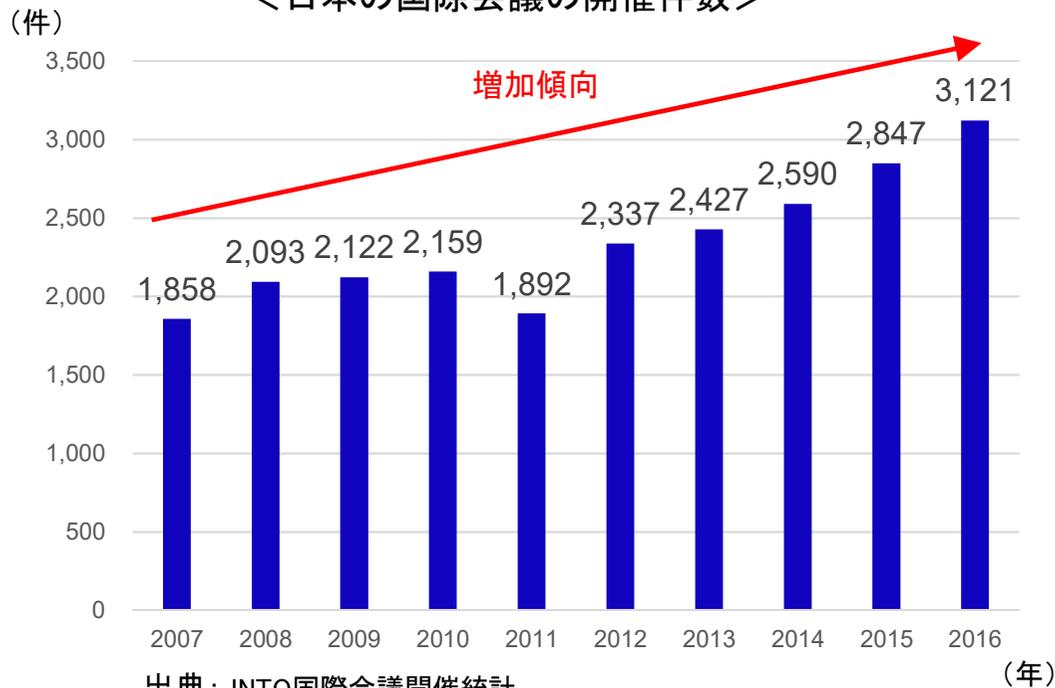
#### MICE施設

(MICE参加者)

・様々なMICEニーズ及びMICE参加者に幅広く対応するため、2019年9月開業予定の愛知県国際展示場に加えて、国際会議場等のMICE施設を国際展示場の近隣に整備する必要があるのではないかと。

⇒国際会議対応設備を備えた会議施設、レセプションホール など

＜日本の国際会議の開催件数＞



＜国際会議開催による経済波及効果等(2015年)＞

経済効果	約5,905億円
雇用効果	約54,000人
税收効果	約455億円

出典：観光庁「平成28年度MICEの経済波及効果及び市場調査事業報告書」

JNTOの基準による国際会議

- ①主催者：「国際機関・国際団体」又は「国家機関・国内団体」
- ②参加者総数：50名以上
- ③参加国：日本を含む3カ国以上
- ④開催期間：1日以上

### 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ③

#### 多様なニーズに対応できる宿泊施設

(MICE参加者)

- ・長期滞在型のビジネス客や高所得者層に対応するための高級ホテルなど、空港周辺エリアにおいて宿泊施設の多様化を図るべきではないか。
  - ・宿泊施設には、ハイレベルなビジネスセンターを整備すべきではないか。
- ⇒長期滞在向けのゆとりあるビジネスホテル、ハイクラスホテルなど

(訪日外国人旅行者)

- ・滞在そのものが旅の目的地となるような、高いデザイン性や、日本の文化が織り込まれるなどの趣向を凝らした宿泊施設を整備すべきではないか。
  - ・宿泊施設には、コンシェルジュ機能や広域エリアまでカバーした観光案内機能を整備するといいいのではないか。
- ⇒個性的なデスティネーション型ホテル、高級コンドミニアムなど



個性的なホテル  
マリーナベイサンズ  
(シンガポール)



日本らしさの演出  
日本庭園のある風景

©Aichi Now

### 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ④

#### エンターテインメント施設、レストラン、ショッピング

(MICE参加者)

・MICE開催地としての魅力を向上するためのアフターコンベンションの充実につながる施設を整備すべきではないか。

⇒劇場、美術館、産業博物館、小売店、飲食店 など

(訪日外国人旅行者)

・世界から人を惹きつけるための、日本、愛知の魅力あるコンテンツを活かしたエンターテインメント施設や、日本を代表する食文化を体験できるレストランなど、魅力施設を一体的に整備すべきではないか。

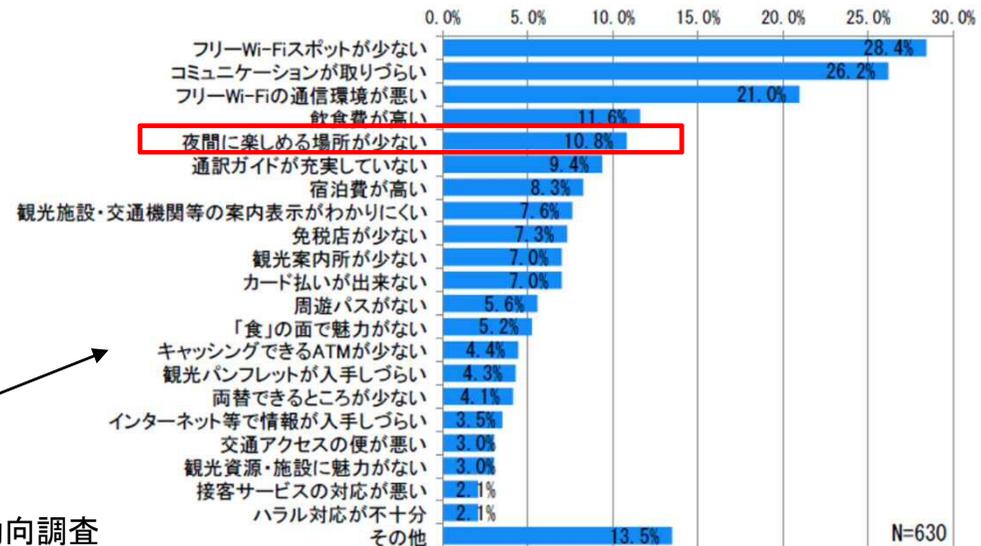
⇒最先端技術を活用した体験型アミューズメント施設、高級料亭、スポーツ観戦施設 など

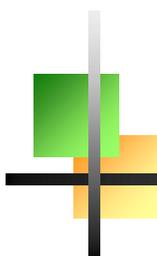
#### ナイトライフアミューズメント

「夜間に楽しめる場所が少ない」との不満を解消するため、こうした施設を夜遅くまで(または24時間)営業できると良いのではないか。

「不満に感じた点」

出典：平成28年度愛知県訪日外客動向調査





### 3 ターゲットを踏まえた機能整備のイメージ⑤

#### 豊富な観光資源との連携

(MICE参加者)

- ・商談後のショートトリップなど、観光に充てる時間の少ないビジネス客向けの観光メニューの充実を図るべきではないか。

(訪日外国人旅行者)

- ・国内外から訪れる人々の旅の拠点となるよう、広域的に地域の伝統、歴史、文化、産業、グルメ、スポーツなどの魅力を発信し、日本各地への周遊観光を促進する必要があるのではないか。

⇒地域文化のショーケース、多様なニーズにきめ細やかに対応できる旅行コンシェルジュ、日本、愛知の魅力をVR技術等により疑似体験でき、気に入った地域へ旅立てるような最先端技術を駆使した総合案内センター

⇒周辺地域の観光施設や広域観光事業との連携

## 4 この地域ならではの特色について①

(第2回研究会におけるご意見)

- ・いかに愛知らしさの特色を出していけるかが重要。
- ・愛知だけにしかないようなエンターテイメントを、今後、考えていかなければならない。

(本県の考え方)

- ・愛知が誇る産業力を生かし、自動運転やロボット、次世代通信、環境、エネルギーなどの最先端技術を展開し、中部国際空港エリアにおいて、モデル未来都市を実現する。
- ・県内各地の産業観光、武将観光、歴史・文化などの観光資源と連携し、この地域全体として魅力を発信する。

## 4 この地域ならではの特色について②

### ①世界をリードする愛知の最先端技術～モデル未来都市を目指す～

〔最先端技術を活用したモデル未来都市のイメージ〕

#### 自動運転

無人自動運転サービスを導入

- ・自動走行車両を利用した無人タクシー
- ・遠隔操作による車両隊列走行、駐車場への自動走行など



#### ロボット

ロボット技術の実用化と導入

- ・案内ロボット
- ・荷物運搬ロボット
- ・警備ロボット
- ・サービスロボットの体験



エアポートコンシェルジュロボット  
“CAIBA”

#### 情報通信技術

情報通信技術等を応用した新たなサービスを導入

- ・ヴァーチャル展示会や臨場感溢れるパブリックビューイングの開催
- ・VR(仮想現実)などのアミューズメント利用

※2020年の実現を目指して取組が進められている次世代移動通信システム(5G)等の活用により、各施設等を有機的に結び付けることが考えられる。

## 4 この地域ならではの特色について③

### ②愛知らしさを象徴する観光資源(産業観光)

#### あいち航空ミュージアム (11/30オープン)

県営名古屋空港周辺地域は、国産初のジェット旅客機MRJが開発・生産される我が国唯一の地域。戦後初の国産旅客機・YS-11の実機のほか、愛知県の航空機産業の歴史に触れられる展示も予定。



外観イメージ



内観イメージ

誰もが持っている「空への憧れ」を呼び覚まし、「飛ぶとは？」を学び、体感できるコンテンツやイベントを計画。

#### FLIGHT OF DREAMS(2018年夏頃オープン)

ボーイング787初号機の展示を中心とした複合商業施設。航空機の部品製造から飛行までを学ぶことができる体験コンテンツやシアトルの街並をイメージした飲食・物販店が入居。



出典: 中部国際空港(株)HP



出典: 中部国際空港(株)HP

#### トヨタ産業技術記念館

明治からの歴史を伝えるトヨタの企業博物館。主に「繊維機械館」「自動車館」の2つから構成。



©Aichi Now



©Aichi Now

## 4 この地域ならではの特色について④

### ③愛知らしさを象徴する観光資源(武将観光・文化)

#### 豊富な武将観光資源

愛知は織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三英傑を始め多くの戦国武将を輩出した武将のふるさと。城、史跡など豊富な武将観光資源が点在。



©Aichi Now

名古屋城本丸御殿  
H30年復元建物完成予定



©Aichi Now

国宝犬山城  
天文6年(1537年)築城  
現存する日本最古の天守



©Aichi Now

岡崎城天守閣  
慶長14年(1609年)創建  
昭和34年(1959年)再建

武将観光イベントの開催や忍者隊による武将観光のPR活動を実施



武将観光イベントの開催



忍者観光 徳川家康と服部半蔵忍者隊



#### 山・鉾・屋台行事

ユネスコ無形文化遺産として登録された「山・鉾・屋台行事」の文化財



亀崎潮干祭の屋台行事

#### ポップカルチャー文化

「世界コスプレサミット」への開催支援や  
ぽぷかるイベントの開催



世界コスプレサミット

※その他、醸造(酒・酢・醤油・味噌)文化や山村離島など、本県には多様な観光資源が存在

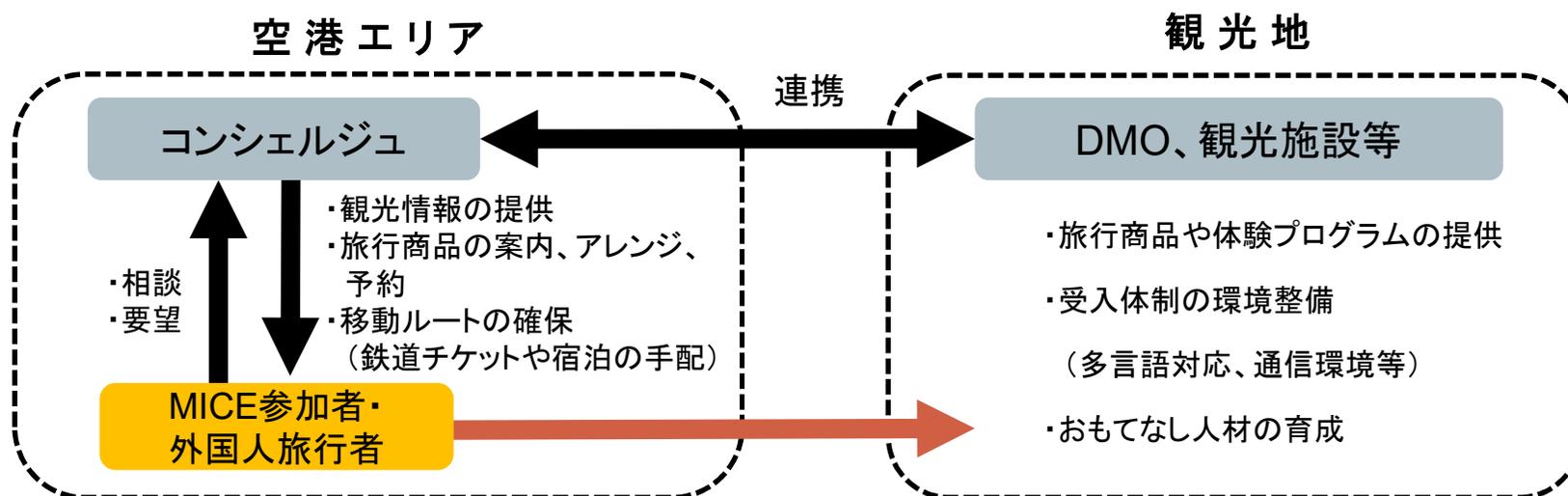
## 5 周辺地域との観光連携について

(第2回研究会におけるご意見)

- ・空港エリアに人を呼び込むだけでなく、そこから各地域に人を送り出す機能についても検討が必要。
- ・地域文化のショーケースのような機能を展開していくことが必要。

(本県の考え方)

- ・中部国際空港エリアが旅の一つの目的地となるとともに、周辺地域との連携を進めることで、空港エリアを起点とした周遊観光を促進していく。
- ・空港エリアのコンシェルジュ機能の充実と観光地との連携を広域的に進め、空港でのワンストップ窓口により、スムーズな旅行を実現する。



## (参考) 広域観光の取組事例

### ◆ 竜の子街道プロジェクト（常滑市・半田市・碧南市・西尾市）

常滑市・半田市・碧南市・西尾市が共通の地域資源を活用して新たな観光資源を創りだすことで、この地域に多くの人を呼び込む事業。やきもののまち「常滑」、蔵のまち「半田」、寺のまち「碧南」、抹茶のまち「西尾」からなる竜の子街道は、中部国際空港からのショートトリップにも最適



### ◆ (一社) 中央日本総合観光機構(広域連携DMO)

昇龍道プロジェクトをはじめ、中部・北陸9県の広域観光を推進

- ・マーケティング及びブランディング戦略の策定
- ・メディアファームトリップ
- ・Web、SNSを活用した情報発信
- ・テーマ街道事業の推進
- ・海外プロモーションの実施



### ◆ 東海地区外国人観光客誘致促進協議会

愛知、静岡、岐阜、三重の東海4県の広域観光を推進

- ・アメリカ及びフィリピンからのメディア招請
- ・伊勢湾周遊旅行商品の造成に向けた台湾メディアファーム及び商談会の開催
- ・中国からのFIT旅行の促進に向けたブLOGGER招請
- ・ベトナムでの旅行博出展と観光プロモーションの実施、旅行会社招請

## 6 国際観光都市として目指すべき方向性(まとめ)

- 本県の圧倒的な産業力、豊かな観光資源、良好なアクセス環境を活かして、数多くのMICE参加者、訪日外国人旅行者を中心に集客するため、世界の国際観光都市の例に倣い、国際展示場などのMICE施設とあわせて、多様なニーズに対応する宿泊機能や多彩なエンターテインメント機能等の整備を図る。
- 愛知の誇る最先端技術を随所に導入するとともに、県内各地の観光資源と併せて、この地域全体としての魅力を発信していく。
- 中部国際空港周辺エリアと周辺地域との連携を進め、空港でのワンストップ窓口によりスムーズな旅行を実現し、この地域のゲートウェイとしての国際観光都市を目指す。